

〔公立八鹿病院プログラム〕

1. 研修プログラムの特色

兵庫県北部南但馬地域の養父（やぶ）市にある 420 床の公立八鹿（ようか）病院が管理型病院です。東京都の半分程度の面積、人口 10 万弱の診療圏において、救急、急性期医療に加えて、慢性期医療、予防医療、回復期リハビリ、緩和ケア、在宅医療など包括的ヘルスケアを提供する地域中核病院とへき地病院と精神科病院を協力型病院としたプログラム。

大学附属病院では経験できない高齢化先進地での包括的地域医療を研修するプログラムであり、日本の近未来と言われる高齢化地域で、高度医療機器と充実したコメディカルスタッフと専門医の指導下で、豊富で偏らない症例を経験できることが特徴です。

救急研修では、ER 型救急外来での研修に加えて、救急に必要な処置や検査の手技を研修します。地域医療研修では、総合診療経験豊富な指導医のもと、偏らない豊富な症例を自ら担当し経験することで、鑑別診断能力、臨床推論能力を確実に身につけることが可能です。また、助産師出産や乳児健診などの研修を行うこともできます。選択研修では、外科、整形外科、麻酔科が選択可能です。

2. 臨床研修の目標の概要

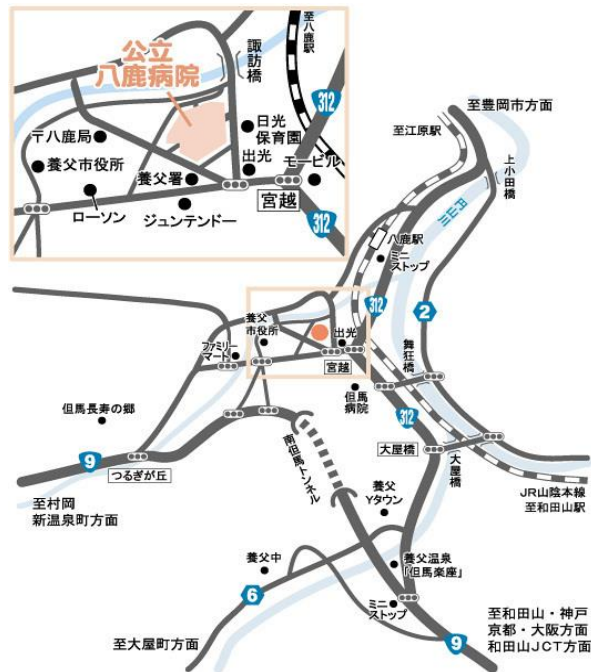
家庭医、病院総合医、臓器別専門医として地域医療に従事する医師の初期研修として研修目標を設定している。

- 1) 医師として最低限必要なプロフェッショナリズムを身に付ける。
- 2) プライマリ・ケアに必要な基本的な知識・技能・態度を身につける。
- 3) 身体疾患をケアできるだけでなく心理面や社会面にも配慮した全人的医療を理解し身につける。
- 4) 保健医療福祉の包括的ヘルスケアを経験し、チーム医療を理解する。
- 5) 担当医として個々の患者に応じて問題点を明確にし、それを解決していく主治医能力を身につける。
- 6) UpToDate や文献検索など、情報収集により自ら学習できる能力を身につける。
- 7) カルテ記載、退院時サマリーや紹介状、返書、各種診断書などを書ける能力を身につける。
- 8) 症例をまとめることができ、発表できる能力を身につける。
- 9) チーム医療のリーダーとして、他職種の役割を理解し、患者の立場にたって医療を提供する能力を身につける。
- 10) 医療の社会性に目を向け、地域住民の求める医療・介護・福祉にむけて実践できる能力を身につける。
- 11) 訪問診療、施設ケアなどを通じて、医療・介護・福祉の連携を学ぶ。
- 12) 医療事故を防止するために、その要点を理解し医療事故発生時に適切に対応する能力を身につける。
- 13) 保険診療を理解し、適切な診療を行う能力を身につける。
- 14) 後輩の医師や医学生に指導・援助できる能力を身につける。
- 15) 健康教室などを通じて患者教育の経験をする。

3. プログラムの内容

- 内 科 (6 か月)
 - 公立八鹿病院 内科 (循環器・消化器)・総合診療科・脳神経内科
- 救 急 (3 か月)
 - 公立八鹿病院 救急科・総合診療科
- 外 科 (選択) (1~2 か月)
 - 公立八鹿病院 外科
- 整形外科 (選択) (2~3 か月)
 - 公立八鹿病院 整形外科
- 麻 酔 科 (選択) (1 か月)
 - 公立八鹿病院 麻酔科

4. アクセス



高速バス利用 (全但バス)

城崎温泉行き

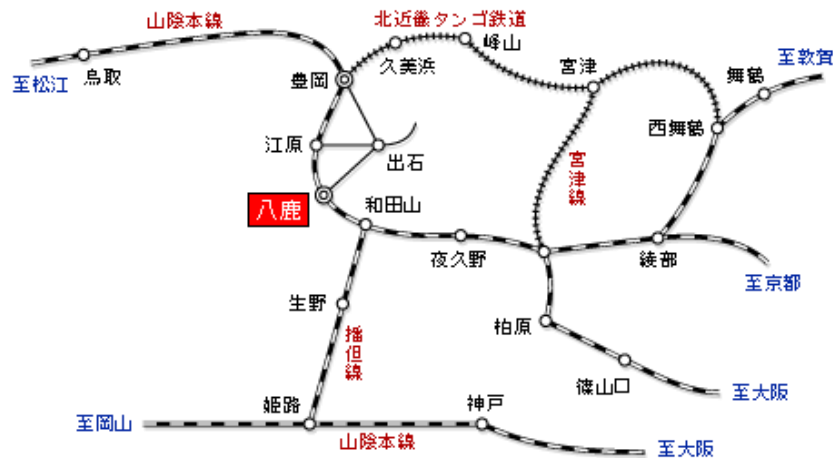
【神戸より】

12:30 三宮 - 12:40 県庁前 → 扇町土木所前 (病院すぐ)



バスは予約制です。

J R 利用



JR 山陰本線八鹿駅下車 タクシー 4分または、徒歩約 15分

自家用車利用の場合：（*交通事故には十分注意してください）

神戸、大阪方面からは、北近畿自動車道舞鶴若狭道路春日 I C から豊岡自動車道、遠坂トンネル→和田山→八鹿氷ノ山 I C →八鹿病院が便利です。

姫路方面からのアクセスは播但自動車道→和田山→八鹿氷ノ山 I C →八鹿病院が便利です。

研修開始初日の午前中は当院への移動時間とし、午後から研修開始とします。また研修最終日は午前中で研修を終了します。荷物が多い場合は、公立八鹿病院総務課へあらかじめ連絡した上で、宅急便等で病院宛に送付してください。交通手段はアクセスの項目を参照してください。

4. 生活・食事・宿舎

生活・食事面について

院内にコンビニやレストランがあり、過疎地域ではありますが日常生活に不便を感じることはありません。また、昼・夕食を病院内の職員食堂にて安価でご提供いたします。

宿舎について

病院近隣にあります官舎で 2LDK のマンションを準備いたします。

〔公立八鹿病院 内科〕

【研修の特徴と内容】

一般内科をベースに、循環器、消化器、呼吸器、神経内科の各臓器別専門の研修を行う。また、総合診療科外来、総合診療病棟での急性期から回復期リハビリ病棟、在宅医療までの継続した症例を経験する。

- ・豊富で偏らない症例を経験することにより、鑑別診断能力、臨床推論能力を身につけることができる。
- ・臓器別専門医、指導医による指導体制が整備されている。
- ・指導医のもと外来および入院の症例を自己決定型研修で行うことにより、臨床力を身につけることができる。
- ・急性期、回復期リハビリ、慢性期、在宅医療まで、継続診療を経験できる。
- ・上部下部消化管内視鏡、腹部エコー、心エコー、仮想内視鏡ナビゲーションによる気管支ファイバースコープなどが研修できる。
- ・プライマリ・ケアを中心とした研修を行う。
- ・施設内はもちろん病診連携をはじめとする地域チーム医療を研修する。

【研修医のカリキュラム】

病棟診療 受持ち患者数 5～15名

循環器、消化器、呼吸器、その他内科の幅広い症例を経験する

【教育に関する行事】

月～金 8:10～ 総合内科入院症例検討会

水曜日 17:00～ 内科カンファレンス

指導医・上級医

内科部長	高内 善・清水 辰宣
内科・総合診療科部長	黒田 達実
内科	青木 智子・浦瀬 康代・伊藤 誠二・上田 康雅
循環器科	渋谷 純
救急科・総合診療科部長	倉橋 卓男
総合診療科部長	田村 邦彦

指導責任者

内科部長	清水 辰宣
------	-------

〔公立八鹿病院 救急科・総合診療科〕

【研修の特徴と内容】

八鹿病院は西南但馬地域における中心的な二次医療機関である。また、災害拠点病院にも指定されている。さらに、救急救命士の気管挿管の実習実施医療機関でもある。南但消防本部養父署からの救急搬送患者は、ほとんど当院が受け入れており、近隣の消防本部からも、心臓カテーテルの必要な急患や脳外科を含む多発外傷患者などが搬送されてくる。休日・夜間は内科系及び外科系医師が各 1 名で当直している。各専門科の医師はオンコール体制で待機している。平成 17 年 4 月からは、ER 型救急外来として総合診療科の医師を中心としたシステムがスタートした。内科・外科・麻酔科等の研修中に随時、救急患者の診療をスタッフとともにやっている。

【研修目標】

- 1) 一次救命処置（BLS）が指導でき、二次救命処置（ACLS）が実施できる。
- 2) 外傷病院前救護プログラム（JPTEC）が理解でき、プライマリ・ケアの外傷初期治療が実施できる。
- 3) 内因性疾患及び外傷について初療の診察ができ、さらにトリアージや上級医へのコンサルトも行える。

指導医・上級医

救急科・総合診療科部長 倉橋 卓男

指導責任者

救急科・総合診療科部長 倉橋 卓男

〔公立八鹿病院 外科〕

【研修の特徴と内容】

当科では消化器悪性疾患を中心に、胆石症、急性虫垂炎など良性消化器疾患や鼠径ヘルニアなど一般外科的な疾患に対して手術などの治療を行っています。

外科研修に来られた先生方には、まず基本的事項として、社会人の基本姿勢、医師としての基本姿勢を学んでいただきます。更に当科では癌などの悪性疾患を取り扱うことも多いため、一般目標として患者への対応の仕方、守秘義務等についても学んでいただきたいと思います。

行動目標としては積極的に手術や外来処置に参加してもらい、さらに外科的診断法、手技・処置法を修得してもらいたいと思います。また、内科系志望の医師にとっては今後外科的処置を学ぶ機会は少なくなるため、この研修にて医師にとって必要不可欠な清潔概念、簡単な縫合・結紮処置等をぜひ身につけていただきたいと思います。

最後に、当科には若い医師も多く、共に行動することで、研修プログラムだけではわからない外科医の実際の仕事内容が見えてきます。自分の手技で傷を治してあげられる充実感、手術を通じて怪我や病気から命を救ってあげられたときに達成感なども若手医師がいることで共感できるかもしれません。外科医もいいなと思える研修を提供したいと考えています。

【教育に関する行事】

月曜日 病棟回診処置、手術

火曜日 病棟回診処置、手術

水曜日 病棟回診処置、手術

木曜日 病棟回診処置、手術、手術症例カンファレンス

金曜日 病棟回診処置

随時 上部および下部内視鏡検査、上部・下部消化管透視検査

腹部超音波検査、ドライラボによる縫合・結紮訓練習

指導医・上級医

副院長・外科部長 西田 勝浩

外科部長 大原 忠孝

外科 前田 暁行

外科 松本 高典

指導責任者

副院長・外科部長 西田 勝浩

〔公立八鹿病院 整形外科〕

【研修の特徴と内容】

整形外科的疾患の外傷、慢性疾患のおおまかな全体像を把握してもらうことを目標とします。

午前中は、外来診療に立ち会ってもらって、診療の進め方を掴んでもらい、ある程度慣れたら、外来初診患者さんの問診、理学的所見をとってもらいます。

午後は、手術にはいってもらって、力量に応じて参加してもらいます。

時間外の整形外科的疾患の対応では、スタッフの指導のもと、最前線で活躍してもらいます。

【研修目標】

1. 慢性疾患の診断、治療の進め方を理解、実践する。
2. 脱臼、骨折など外傷の初期治療の基礎を身につける。

【教育に関する行事】

月水金	8:00～8:30	病棟処置
月～金	8:30～13:00	外来診療
火～金	13:00～17:00	手術
火曜日	18:00～19:00	術前、術後カンファレンス
水曜日	16:00～17:30	病棟回診（回復期リハ棟含む） 入院患者カンファレンス
木曜日	8:00～8:30	抄読会

指導医・上級医

整形外科部長	元津	康彦
整形外科医長	手島	隆志

指導責任者

整形外科部長	元津	康彦
--------	----	----

〔公立八鹿病院 麻酔科〕

【研修の特徴と内容】

一般的な手術麻酔全般の基礎知識、および技術を習得する。

当院は典型的な少子高齢化地域にあり高齢者の麻酔が大部分を占める。

呼吸、循環さらには中枢神経疾患を含めたハイリスク症例が大多数となり、いかに予備力の少ない症例の麻酔を安全におこなうかが重要なポイントとなる。

当然マニュアル通りの管理は困難であり個々の症例毎に応じた綿密な麻酔計画と技術が必要になってくる。

【研修の実際】

(1) 初期研修

全身管理に必要な臨床的技術と知識を習得することを目的とし、個々の症例に応じた麻酔計画の作成・術中管理・術後回診を指導医とともに行う。

麻酔技術の習得目標：全身麻酔法、各種局所麻酔法、人工呼吸法、気管挿管、静脈確保、内頸静脈穿刺、動脈穿刺、腰椎穿刺など。

(2) 選択研修

将来、麻酔科標榜を希望する医師のために麻酔医として必要な臨床的技術と知識を習得する。初期研修の項目を各自がしっかりと習得することを目的とする。

さらに硬膜外麻酔を含む専門技術の習得を行う。

希望すれば、ペインクリニックや緩和ケアの研修を行うことも出来る。

【教育に関する行事】

月～金 8:30～術前・術後症例検討会

月～金 8:30～手術室における麻酔および術後回診

月曜日 午前 重症症例術前診察

指導医・上級医

管理者	富 勝治
麻酔科部長	坂本 昇太郎

指導責任者

麻酔科部長	坂本 昇太郎
-------	--------

〔公立八鹿病院 地域医療〕

【研修期間と定員】

1名、2ヶ月

【研修の特徴と内容】

総合診療科の外来におけるプライマリ・ケアを中心とした研修である。

- ・豊富で偏らない症例を経験することにより、鑑別診断能力、臨床推論能力を身につけることができる。
- ・指導医のもと外来の症例を自己決定型研修で行うことにより、臨床力を身につけることができる。
- ・腹部及び心臓超音波検査を研修できる。
- ・施設内はもちろん病診連携をはじめとする地域チーム医療を研修する。
- ・希望者は助産師出産、乳児健診等を経験することができる。

【研修医のカリキュラム】

総合診療科において外来症例の初期診療及び継続診療を経験する。

希望者は助産師出産、乳児健診等を経験する。

【教育に関する行事】

研修終了前：研修報告会

指導医・上級医

救急科・総合診療科部長	倉橋 卓男
副院長・産婦人科部長	津崎 恒明
産婦人科	松本 典子
	尾崎 和彦
小児科	山崎 武美（非常勤）
	吉田 真策（非常勤）

指導責任者

救急科・総合診療科部長	倉橋 卓男
-------------	-------